

君子訓

下

番外書目册

			二四	和
			五九	書
		六	七	門
三册	二架	函	號	類

庫	文	閣	內	
一九〇函		二四二九七		和
一七架	三册	七		書
		號	類	

內閣文庫	
番號	和 24297
冊數	3 (3)
函號	190 377

切教女訓



君子制卷之下

貝原篤信編述

淺草文庫

君子ハ玉土乃利を以て民を
 治スル也。運上多ク課役をかけた民を苦めず
 民乃利を以て民を治スル也。とを禁ず。且仕へて君乃禄を以て者ハ
 利を求むべからず。古語
 大を受るものハ小を以て受るものハ大を以て受るもの

天乃物を生ずるニおからん全きことなし
 牙^{キバ}ある^{ケタモウ}角^{ツバサ}ある^{ツバサ}角ある^{ツバサ}け^{ツバサ}るものよ上齒
 な^{ツバサ}一^{ツバサ}翼あるものハ^{ツバサ}な^{ツバサ}一^{ツバサ}花よきもの乃ハ
 実^{ツバサ}あ^{ツバサ}一^{ツバサ}く^{ツバサ}実よきものハ^{ツバサ}花あ^{ツバサ}一^{ツバサ}く^{ツバサ}士と
 て^{ツバサ}君乃^{ツバサ}禄を^{ツバサ}ゆる^{ツバサ}者^{ツバサ}民と^{ツバサ}利を^{ツバサ}奪^{ツバサ}ひ^{ツバサ}民乃
 妹^{ツバサ}を^{ツバサ}奪^{ツバサ}ひ^{ツバサ}天乃^{ツバサ}よろ^{ツバサ}む^{ツバサ}なり
 世^{ツバサ}間^{ツバサ}よ^{ツバサ}た^{ツバサ}ほ^{ツバサ}く^{ツバサ}人^{ツバサ}を^{ツバサ}殺^{ツバサ}す^{ツバサ}こと^{ツバサ}曰^{ツバサ}あ^{ツバサ}る^{ツバサ}刑^{ツバサ}兵^{ツバサ}罪^{ツバサ}病
 ち^{ツバサ}り^{ツバサ}一^{ツバサ}よ^{ツバサ}ハ^{ツバサ}刑^{ツバサ}を^{ツバサ}あ^{ツバサ}や^{ツバサ}す^{ツバサ}り^{ツバサ}て^{ツバサ}と^{ツバサ}が^{ツバサ}な^{ツバサ}き^{ツバサ}者^{ツバサ}と^{ツバサ}料^{ツバサ}

かりきものところす二よハわが身^{ツバサ}乱^{ツバサ}を^{ツバサ}た^{ツバサ}こ
 して^{ツバサ}と^{ツバサ}が^{ツバサ}な^{ツバサ}き^{ツバサ}敵^{ツバサ}身^{ツバサ}方^{ツバサ}を^{ツバサ}多^{ツバサ}く^{ツバサ}殺^{ツバサ}す^{ツバサ}ま^{ツバサ}る^{ツバサ}ワ^{ツバサ}が
 不^{ツバサ}仁^{ツバサ}無^{ツバサ}礼^{ツバサ}ち^{ツバサ}ら^{ツバサ}し^{ツバサ}て^{ツバサ}人^{ツバサ}ハ^{ツバサ}兵^{ツバサ}乱^{ツバサ}を^{ツバサ}た^{ツバサ}り^{ツバサ}し
 む^{ツバサ}る^{ツバサ}ち^{ツバサ}り^{ツバサ}三^{ツバサ}よ^{ツバサ}ハ^{ツバサ}早^{ツバサ}風^{ツバサ}を^{ツバサ}起^{ツバサ}す^{ツバサ}乃^{ツバサ}災^{ツバサ}よ^{ツバサ}あ^{ツバサ}ひ^{ツバサ}民
 多^{ツバサ}く^{ツバサ}傷^{ツバサ}死^{ツバサ}す^{ツバサ}四^{ツバサ}よ^{ツバサ}ハ^{ツバサ}民^{ツバサ}徳^{ツバサ}此^{ツバサ}病^{ツバサ}よ^{ツバサ}か^{ツバサ}る^{ツバサ}を^{ツバサ}踏^{ツバサ}ま
 疫^{ツバサ}病^{ツバサ}の^{ツバサ}や^{ツバサ}ま^{ツバサ}て^{ツバサ}人^{ツバサ}多^{ツバサ}く^{ツバサ}死^{ツバサ}す^{ツバサ}之^{ツバサ}け^{ツバサ}に^{ツバサ}た^{ツバサ}る^{ツバサ}乃^{ツバサ}ハ^{ツバサ}ま
 よ^{ツバサ}く^{ツバサ}人^{ツバサ}を^{ツバサ}殺^{ツバサ}す^{ツバサ}け^{ツバサ}に^{ツバサ}内^{ツバサ}刑^{ツバサ}を^{ツバサ}兵^{ツバサ}の^{ツバサ}人^{ツバサ}の^{ツバサ}う^{ツバサ}ら^{ツバサ}に^{ツバサ}殺
 と^{ツバサ}病^{ツバサ}と^{ツバサ}ハ^{ツバサ}天^{ツバサ}よ^{ツバサ}ら^{ツバサ}し^{ツバサ}家^{ツバサ}は^{ツバサ}違^{ツバサ}ど^{ツバサ}に^{ツバサ}た^{ツバサ}る^{ツバサ}乃^{ツバサ}ハ^{ツバサ}ま

人力を以て殺よしとせずしていうすはあり
先刑を以ていとも民を憂んで衣食をた
らしむれば民ぬすむとせずとが人すくまし
其上は訴^{ウツタヘ}を能きわけ理罪曲直を明
らかにすむば罪ある人ところせず兵を
以ていとも仁義を以て人恨をむく者
なくして之れを以てあが身之れをた
こはせむとせむ及ばず罪を以ていとも民の

土負を以ていとも民を多くつらとせず三を
耕^{カハ}して一年乃食あらしめ飢^{ウエ}る者たすけ
すくば凶年よあひても飢死乃愁ひか
病を以ていとも民よあはけあはし飢害
乃愁ああらしめ病乃中をせむは医業
を施^{ホドユ}して病ある者たすくば病死乃あざ
いひすくましとせむ人よあはせむとせむ
を以ていともあはせむ天よあはせむとせむ

人カを以てしむるはと云ふべしなり
 民乃飢を救ふはもくすく人の費少くして
 於廣^{ホトコシ}一^マ運^マ之れが費多くして施し^セ授^セし
 又飢人を救ふは朝夕飯食の内一食を
 与ふれば死なず其飢れを^{ミタリ}一^{ミタリ}きと^{ミタリ}ま^{ミタリ}一
 か^{ミタリ}と^{ミタリ}擇^{ミタリ}はずして^{ミタリ}安^{ミタリ}は^{ミタリ}多^{ミタリ}く^{ミタリ}与^{ミタリ}ふ
 へ^{ミタリ}か^{ミタリ}ず^{ミタリ}一日^{ミタリ}は^{ミタリ}一^{ミタリ}食^{ミタリ}を^{ミタリ}与^{ミタリ}ふ^{ミタリ}ま^{ミタリ}ば^{ミタリ}米^{ミタリ}多^{ミタリ}から^{ミタリ}ず
 して^{ミタリ}人^{ミタリ}を^{ミタリ}救^{ミタリ}ふ^{ミタリ}こと^{ミタリ}多^{ミタリ}一^{ミタリ}處^{ミタリ}は^{ミタリ}飢^{ミタリ}瘵^{ミタリ}を^{ミタリ}

弱き者を居きて朝夕うすき^{カユ}粥^{カユ}を^{カユ}与^{カユ}ふ
 へ^{カユ}一^{カユ}食^{カユ}を^{カユ}あ^{カユ}ら^{カユ}し^{カユ}む^{カユ}れば^{カユ}死^{カユ}す^{カユ}事^{カユ}力^{カユ}出^{カユ}ま^{カユ}り
 後^{カユ}一^{カユ}食^{カユ}を^{カユ}与^{カユ}ふ^{カユ}へ^{カユ}一^{カユ}食^{カユ}を^{カユ}あ^{カユ}ら^{カユ}し^{カユ}ま^{カユ}ば^{カユ}瘵^{カユ}を^{カユ}治^{カユ}す
 者を集て一日は一食を^{カユ}与^{カユ}ふ^{カユ}へ^{カユ}一^{カユ}食^{カユ}を^{カユ}あ^{カユ}ら^{カユ}し^{カユ}ま^{カユ}ば^{カユ}瘵^{カユ}を^{カユ}治^{カユ}す
 貴賤ある者或は拙劣ある者老人小兒あるど
 人^{カユ}よ^{カユ}い^{カユ}ひ^{カユ}か^{カユ}す^{カユ}あ^{カユ}ら^{カユ}し^{カユ}或^{カユ}は^{カユ}飢^{カユ}を^{カユ}治^{カユ}す^{カユ}て^{カユ}苦^{カユ}し^{カユ}む
 と^{カユ}上^{カユ}は^{カユ}飢^{カユ}を^{カユ}治^{カユ}す^{カユ}も^{カユ}な^{カユ}り^{カユ}人^{カユ}と^{カユ}り^{カユ}あ^{カユ}げ^{カユ}され^{カユ}ば^{カユ}は
 な^{カユ}り^{カユ}人^{カユ}を^{カユ}罪^{カユ}は^{カユ}り^{カユ}是^{カユ}周^{カユ}れ^{カユ}は^{カユ}法^{カユ}なり

又穀と木此實といまぐらうらけるといふ
又市よりしずふちる木ときらせずちい
少き魚をとらず凡万物乃成就せざるを
そこちらばる仁者乃一なり其上相なるも
大よちりて取用ひ建は民用取用はるちる
漢乃宣帝詔曰よ倉を建て米やすき時ハ
價をましくたらくかひて入たき米カワトき
時ハあまひを減し穢くする名づけけ

常平倉といふ米をまぐやすけれハ士農
乃為あしくまたうれハ工商苦しむカワトキと
穢ハは害回ハけある常平倉乃法と
行ハは害なくして四民ともは國富弱ハ
いしず我邦よ古ハ是よちるひて常
平倉あり義倉あり義倉ハ水旱ハ此れわき
いある時飢民を救ふため設くこは良
法なりたゞハ法よは財ともくしてハ



約の事

和漢とも世す急よありてハキヨブン虚文多し
 忠実すくなくハ誠ハ日々衰ハ偽ハ月々盛イカリ
 登サカシちより道を行くんとあつハ當世乃飾カガを
 て奪ヲユるる風俗を改め古の弊素淳朴シエンボク
 乃風俗もま海へ一唐此太宗天下を
 治シむるも奪を去り費を省き公役を
 輕カクく一官貢をかく一正直よして無欲

ある者と民の司とす教養の後民衣食
 能くあつて路も落たるおとひりしす
 商人那も若くても盗乃患ウレヒち一奪シヤ奪ビ
 乃俗をひるごへて淳朴乃風を改せハ
 只上の政をなすはむきハなり
 君子なる人徳ある大社名山大川を以てハ
 祭るべし一熊鷹正しき神をも祭るまじ
 きと祭るを淫祀インシとし一淫祀ハ福サイハイを

是をまらざる編ふなりハツラ 惑ハドイとらふべし富貴
 乃人自身の榮華を行人として神社佛
 堂と建て美物を供キヤウし万燈をともす
 ことあるに費キヤウハ多けきも民乃為ハ
 為キヤウ福も補キヤウちし其材乃費を以て費
 若キヤウある者と極キヤウの賜けなるはうごうり功
 徳ドクとありて天比あるも深キヤウく其キヤウよキヤウ一人
 乃心を耐ナクサメんとして多キヤウくの人とをキヤウまキヤウしキヤウかキヤウる

いかるまきりリヤウをすドウハあるなりとらふべし
 昔梁武帝リヤウ堂ドウ塔タフ伽ガ益ランと多く建て大切徳
 なるべしと思ひ達磨ダルマの問ひしは達磨無
 切徳キヤウとらふと武帝仁政を行はずして下を
 苦タカラしめ民乃貧タカラとしくタカラげタカラあて無用の營エイ化サク
 となる一終イカよハ人うイカと天怒イカりて身イカもイカも
 亡ムベびしを達磨無切徳ムベと苦ムベくムベしムベハ
 かの達磨ハ佛法中乃人ありてムベもムベもムベかムベくムベ乃

如く後世乃多欲ある俗と天地無隔ケシカクあり
とくふべし

風俗乃あきわがごと世乃成行よまらせぬまは
諸人乃あきわがごと世乃成行よまらせぬまは
まゝあてはるるにむす女子と嫁せし
もも衣服兼物ちごふ限よすぎまはたご
るて費入多し是世乃成行よまらせぬまは
かくるるにむす女子と嫁せし

かゝるるにむす女子と嫁せし
男子乃又学問す制に業くも病者とあり
ちごりひて人の扱とたしむる
我子よもこしむるにむす女子と嫁せし
せすしむるにむす女子と嫁せし
あゝくはるるにむす女子と嫁せし
前乃年暮とめしむるにむす女子と嫁せし

りと深くキニ禁キふべし省く者あり重刑
 よりの後キに
 公ツの訴シヤウ訟キクを聽キクふ先我心を平ツらよ一書を
 利リけて吾人ノの心を思シふ極キ言コトを
 きせ目あることニもあらずよ書シせ
 心ココロを察サツす一人ノと云ハせ世ニ文ヲ出スせ
 系ケイ私シ比ヒ員イ負キ悔ヘ願ガなくニ軟ニシ戚セキ朋友ノ
 吸キ養ヨ教タみ助タスけを笑ハ入スす相アあ方ノ

要ヨウ乃ノ理リ乃ノつツまりたタふおとらラべてテ世ニ曲ク直チキ
 是非シを交カすべし若ニ片ハ口ヲを笑ハま或ハ傍カクハラ
 より助タスけ養ヨふ者ノを云ハす信シじまニ惑トヨひ
 移ウツりなバ誤アヤりコト多クかズべし元ノ訴コトを
 聽キクふ先ニ入ル比ヒ云ハす至ニしテすべし先ニ入ル乃ノ云ハ
 とい先ニ早ク言ハ入ル方ノ詞コトバをリ史ヲ信シじ
 善ニくシ後ニはシ方ノをリ理ヲあハせシま
 皆ハひがコトもハあハせシまシるコトなり

所治する者正直なるは家より理あるを教へ
 事行は物と措くずある事行は物と助る
マイナ オウ
 不直なる者其罪を掩はんとして事行は
 物と立とせしむるより其を助る者
 多しかくのこしむる理はひがこしむる
ナイバツ
 なるひがこしむる理はひがこしむる
ウダハ
 公を教へたる者其罪を掩はんとして事行は
 物と立とせしむるより其を助る者
 多しかくのこしむる理はひがこしむる
 なるひがこしむる理はひがこしむる

公を教へたる者其罪を掩はんとして事行は
 物と立とせしむるより其を助る者
 多しかくのこしむる理はひがこしむる
 なるひがこしむる理はひがこしむる
 出するものなり又人の教へるよりして
 方より其を教へたる者其罪を掩はんとして
 事行は物と立とせしむるより其を助る者
 多しかくのこしむる理はひがこしむる
 なるひがこしむる理はひがこしむる
 変りしてある者其罪を掩はんとして事行は
 物と立とせしむるより其を助る者
 多しかくのこしむる理はひがこしむる
 なるひがこしむる理はひがこしむる
 賞罰は君子は臣民を誨する大將あり賞
ミナリ
 罰を立たるは臣下は心服せずして上は威
 ありくある切ある者と賞罰あり衆ある者と

罰せんし下知と云ふは法令より若くは
 とも賞せず罪あるは罰せざる時ハ先
 當り罰信なきものなり其の如くは法立
 ずして民信せざるをすまぬ^{オコタ}つと
 めず悪しき事と爲さずして罪とを
 くり者多し^{シヤウシヨ}尚書ノ令出さば^{コレ}惟^{ソム}行^ムハ^ムめ反
 するものなり^{センギ}其の法令を出さば初より
 思案^{センギ}し^キ後^キで^キ破^キき^キざるやうに

法を立べし^ハ交^ハ下^ハ知^トと^シ出^シして^ハ後^キで^キ其
 法を用ひ者^ハ若^クある^ハ罪^トなり^ハ行^ハふ^ベし
 其の如くは^ハ法^ト立^テて^ハ毀^スず^ハ民^ノ信
 じて^ハ能^クする^ハ後^キで^キ其^ノ法^ヲ立^テる^ハ始^メ
 り^ハ評^儀し^テ其^ノ止^ムべ^シし^ハ始^メを^信じ
 たり^ハ若^ク然^ル令^ヲ出^シて^ハ夕^ニ改^メ時^ハ民^ノ惑^ハひ^テ
 上^ヲを^損ん^ズ
 人を殺し^ハ其^ノ火^ヲつけ^テ公^ノ財^ヲを^盗む^ハ是^レ大

一人禁獄キンゴクせしめてハ其家乃父母兄弟妻子一族
 うきひクルヒ苦クルシみ家業と出てつゝめず且獄
 中一日乃苦クルシみしん捨ち一返する人ハ
 其人の苦クルシみしん乃毒とせしむべし
 凡罪を犯して未だアラハ最色アラハはる内ハ白状する
 者ハ赦すユルス古法あり又知ユルスずし科カを
 犯す者ハ赦すべし再ユルスも犯す者ハ大悪オホアクハ
 らずバ懲コラしめて赦すべし之度コラハ

赦すべしセイノカクシカフ乞齋セイノカクシカフ桓公乃言セイノカクシカフあり
 官ある人公乃法セイノカクシカフをたしめ私セイノカクシカフのあざを
 報ムクひべからず又公此法セイノカクシカフをたしめ私セイノカクシカフ此
 恩セイノカクシカフをむくむべし
 漢土唐の世セイノカクシカフ律令格式乃四法と云はれ
 我セイノカクシカフ西も古テウテイ新テウテイ廷テウテイの律令格式乃名セイノカクシカフを化セイノカクシカフし
 て其法セイノカクシカフ後セイノカクシカフの世セイノカクシカフも其セイノカクシカフ友セイノカクシカフ人セイノカクシカフを教セイノカクシカフへセイノカクシカフしセイノカクシカフて
 るセイノカクシカフ其法セイノカクシカフ乃セイノカクシカフ名セイノカクシカフをセイノカクシカフ化セイノカクシカフしセイノカクシカフてセイノカクシカフ其法セイノカクシカフ場セイノカクシカフ

士と云れ世よ及で云火より中律と格
 と亡び失て今が一様より今と式と云
 今も全本ある律と罪と正す定法を
 里いりるの科トガいりるより定法
 を定せよは定法は撰ニキガひて行ハ刑罰を
 あやまりなき一後代ハは定法をくして
 是れ此奉り識の人まはよせしむせしむ
 こころことよちりあまうこころは唐の代よ

かぎりず昔より律乃云あり近代も明律
 あり律チニ律あり本朝より古律亡びて後
 法曹ハフサウを要抄と云書あり貞永テイエイ乃式目も
 律乃類あり今ハ下知をちす法より本朝より
 淡海公タンカイ乃他もたまる今あり清原夏野
 是を撰せよ義範ギゲと云まゝ今乃集解シワカイと
 りふとあり格ハ古来ハ行い一政をちすを
 今乃集解と云そのより集ツレ乃年ハある

多しあやうしをいふやうよはひしと云記録
 あり式シキハ式法シキホフなり 延喜式エンギシキ今もあはれ律令
 格式乃四書ハ古ハ朝廷政勢セイム乃範ハンちり昔
 乃明法乃學者ハけ四書とあひしと云はれ
 古の道ミチハ本づきて時宜トキヨクハ従ひ律令乃
 書カクと他タして明法乃學と講カウずべきこと也
 後漢ゴカン乃崔寔サイシツクの言コトハ 刑罰者治チ乱ラン之藥
 石也德教者息オス平ヘイ之惡アク肉也といふこと

ころハ政とすも 刑罰と用ひハ病後ヤミヒオコ
 里サト後業と用ひハ如カドハ常々倫乃
 教ハ平生無病の時米肉を食クハして身と
 養カシふが如カドハあると云る人法と他ハ教と
 立タテて民を導ミツくハ一ヒトに上ノ罪を犯す者ハ
 此コノよりとらざしと刑と用ひ教ずしと人を
 罪ツミよつとハ仁ニよあらず古の聖王ハ一人を
 刑ケルして千万人思オモはせむをハ刑ケルハ刑を

至ちりして工と怒^{ウラ}けりしちん或士
 是と申て被^レ民の言一の^一理ありし
 士不学よりて孝乃乃の^一まきと一
 又刑の属^{ゴケイ}之^{タケヒ}平よりて罪不孝より大なるハ
 ち一とちの^一まきと一か^一けり
 ち一とちの^一まきと一民とよ人倫乃と一
 ち^一ん^一の^一あ^一べ^一の^一ず^一村里の^一佛堂と建て
 僧法師の^一掌^一教^一の^一佛法と^一あ^一る^一程こそ

ちあるま一それ^一あ^一り^一の^一司^{ツカサ}時^一の^一ま^一き
 耕化乃^一の^一父母と^一ま^一ら^一ひ^一君^一長と^一教^一ひ^一法
 今と^一あ^一る^一の^一廣^レ濶^クと^一う^一げ^一す^一一^一直^一と^一一^一
 偽^{イヌリ}と^一く^一人^一と^一ま^一ら^一り^一ち^一ま^一き^一と^一あ^一る^一戒^{イシ}め^一ハ
 風俗^一西^一一^一万^一民^一和^一順^一と^一使^一ひ^一易^{ヤス}と^一
 べ^一一^一殊^一の^一農^一人^一の^一世^セ扱^コよ^一ち^一あ^一ず^一あ^一る^一あ^一る^一
 深^一ま^一ず^一は^一ん^一朴^{スナホ}あり^一た^一理^一を^一あ^一ら^一ん^一辱^{ニキヒ}ら^一ハ
 昔^一の^一遷^{ウツ}を^一あ^一ず^一く^一一^一古^一の^一淳^{ジュン}朴^{ホウ}と^一あ^一る^一風

よよむらひくべり
 士乃節義ありと上より愛らるす也バ士の
 風俗強くして忠臣勇士多く出づるも
 柔懦ジウダにして後ひやき老を候び剛直カウチウクなる
 士ときくべし乃風俗弱くありて恥ハチと
 せず子イユ信使子イユの人多く出づるも忠信をまん
 一節義タツトとまじく士とまじく道のなり
 天は怪異クワイイありて是地は妖祥ヨウシヤウたるハ是を

天乃人よ愛とあしつげりまめ給りなり
 徳をば親乃子を憐アハレみくも徳とあめ給り
 ちしめんとしてせりめんすもあしつめ
 主ハ天乃戒めとあま給りてあまを顧カヘリみ
 せ政とあしつてあまをまじりて
 是自然とあまをまじりてあまを思へハ大
 なる不敬なり天愛あまをたすすとい
 るいしハ玉女とほらむす基モトイなり

粟^{ヤシナ}のんや花^{ハナ}乃^{ナラ}米^{コメ}を以^モて價^{アタイ}たらしむるも
 民^{タタ}の糶^{コト}を賣^ウて多^{オホク}にたかざりて糶^{コト}乃^{ナラ}米^{コメ}を民^{タタ}
 多^{オホク}とすべし別^{ワカ}家^カ命^{ノチ}あると曰^{イハ}ふべし
 太^{タイ}公^{コウ}望^{ボウ}曰^{イハ}以^モ不^フ仁^ニ得^テ之^ヲ以^モ不^フ仁^ニ責^ム之^ヲ必^ズ及^ブ其^ノ世^ニ
 云^{ハク}不^レ仁^ニ以^テて凶^ニと爲^ルる人^ハ不^レ仁^ニを
 以^テて凶^ニと爲^ルるも必^ズ其^ノ代^ニより亡^スぶ大^ヤ人^ト知^ル
 るるこゝろをたぬる身^ハ凶^ニと爲^ルる者^{ナラ}久^クすむる
 其^レ君^ハ仁^ニなるべし亡^スぶ者^ハ不^レ仁^ニなるべし

桀^{ケツ}紂^{チウ}以下^{シキ}歴^レ代^ニ不^レ仁^ニの君^ハ亡^スびけむるハ皆^ハ
 其^レ君^ハ湯^{トウ}武^ブの仁^ニを以^テて亡^スぶ漢^{カン}北^{ホク}の祖^ソ
 文帝^{ブンテイ}後^ゴ漢^{カン}乃^ハ光^{コウ}武^ブ唐^{トウ}乃^ハ太宗^{テイソウ}其^レ歴^レ代^ノ
 賢^{ケン}君^ハ皆^ハ仁^ニ心^ヲありて其^レ君^ハ長^ク久^クせむる
 必^ズ其^レ君^ハ其^レ身^ヲ乃^ハ安^ク危^ク皆^ハ仁^ニと不^レ仁^ニと
 よむる禹^ウ湯^{トウ}ハ己^ノ身^ヲを以^テて其^レ君^ハ長^ク久^クせむる
 桀^{ケツ}紂^{チウ}ハ人^ヲを以^テて其^レ君^ハ亡^スびけむるを以^テて其^レ君^ハ
 仁^ニなり人^ヲを以^テて其^レ君^ハ亡^スぶ不^レ仁^ニなり仁^ニ乃^ハ亡^スぶ^{アニ}

つとめばむべし

唐乃李斯^リの^シ一人事おとるぬ^クあま
まが必^ニし^テも^シ同^ク二つよ^ハ民同^ク何^レ憂^ク甚^ク
うあ^ニつよ^ハその^レ世^ニ政^をた^スん^ニよ^クあ^リ
よき^ナら^ウあ^リま^ニつよ^ハ今の^レ政^{より}
あ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニ
た^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニ
あ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニ

あげき^クち^ニ寧^ク法^ノ法^ヲす^ルべ^シ
秦始皇^シ二世^ク帝^ノ曰^ク天下^ヲ保^ツと^ス
ま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニ
き^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニあ^リま^ニ
法^ヲと^キび^テく^レく^レく^レと^キす^ル民^上を
犯^スず^シて^ハ礼^ヲと^キず^シて^ハ刑^ヲと^キす^ル秦^ノ
天下^ヲ失^フる^レゆ^ニなり^ク秦^ノより^ハ天下^ヲ
治^ムる^レ能^ハず^シて^ハ天下^ヲ失^フる^レを

田子川

〇

亡るを人なきは皆はなかり天下をたもち
ていふ言をたひして廣く民をあらねあぐ
みて美民をたもつるをたもつておほすべし
后下も禄とましくして富をよめるをたも
つてつうひがしく用ゐたらず后下貧窮
よせまわらば必死せず偽よとてやま
ちなりて忠をたもつるをたもつるをたも
つるをたもつるをたもつるをたもつるを

かくすなきは忠愛ありては民は
乃ぞもていつてはたもつるをたもつるを
善悪もたもつるをたもつるをたもつるを
昔もたもつるをたもつるをたもつるを
たもつるをたもつるをたもつるをたもつるを
或は君の言よは神の言君の言をたもつるを
たもつるをたもつるをたもつるをたもつるを
罰をたもつるをたもつるをたもつるをたもつるを

初^テ免^カズ一君の爵に及びこころを
 以て乃かぐべ一其後と民との心を以て
 背^{ワザ}あきぬき^{ハヒ}ば^ハ乃かぐべきやうなるし
 漢^{モロコシ}土も大^{ヤマト}おも五公乃西土なる^ハ乃かぐべ
 此^ハ初^ハの^ハせ^ハめて^ハ難^キなる^ハ中^ハも
 戦^ハぬ^ハの^ハ時^ハも^ハあ^ハる^ハ一^ハも^ハあ^ハる^ハ一^ハも^ハあ^ハる^ハ
 人^ハの^ハ安^カら^ハぬ^ハる^ハあ^ハる^ハ一^ハ外^{カゼ}は^ク振^クつ^クる^ハは^カミ^{アラ}は
 新^{セン}文^{トウ}戦^ウ國^{クニ}と^ハり^ハと^ハ一^ハ自^{ミツ}ら^カ歌^カは^ク隆^クえ^ハ隆^{ホウ}

痛^テと^ハ冒^カ一方^ハ死^スを^ハ出^スて^ハ一^ハ生^スを^ハの^ハ常^ニは^ハ心^ヲ
 勞^カ一^ハ身^ヲを^ハ苦^シし^ハめ^ハ大^カ艱^カ難^カ大^カ辛^カ勞^ヲを^ハ經^ル
 終^ニは^ハ大^カ富^ヲを^ハの^ハ大^カ福^ヲを^ハ受^ケる^ハは^ハ只^ニ時^ノの^ハ幸^ニ
 よ^クな^ルも^ハち^ハく^ハた^ハや^スく^ハ西^ノを^ハの^ハ終^ニは^ハ
 あ^ハら^ズ又^ハ既^ニに^ハ富^ヲを^ハの^ハ城^ノ郭^ヲを^ハ築^キ
 法^ヲ制^スを^ハ定^メぬ^ハは^ハ辛^カ勞^ヲを^ハ亦^ハか^ラぬ^ハ
 其^ノ大^カ勤^ヲ勞^ヲを^ハの^ハ終^ニは^ハは^ハは^ハは^ハは^ハ
 義^ノ心^ヲを^ハの^ハ我^ノ一^ハ代^ノの^ハ榮^ヲ華^ヲを^ハの^ハ人^ニ

ためよにあらず代へ賢子孫ねりしを
能く志としむる法もきりて人民を保ち
西土を先ずすも久しう業えし
ことと教ひたまふは始て西土の
先公の心より君子創業垂統為可継乃
意あつし君子孫も人の先祖の大勲業を
以て西土を治るるも思ひて
先祖を慕ひて思ふは先祖の徳を慕ひて

永く西土を保ち人民を治るるは
先祖の志よかたいて諸侯の孝行より
大なるいなり若先祖乃西土の
ことの難きことを思はず身行の辛勞
をみく居ちるがら西土を治るるも
安を安んずるは諸侯の徳を慕ひて
先祖を慕ひて思ふは先祖の徳を
慕ひて思ふは先祖の徳を慕ひて

孝子孫

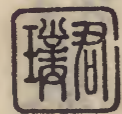
國クニの政セイ法ホウを振ミりしる終ハシは其臣シ民ミンのそ
 むの道ミチ西ニ土ツチをまスるに至マるに諸シヨ侯コウ乃ハ孝コウ
 是コトより大オホなるいハるにハはれもあハれもいハはる
 乃ハ二ニの西ニ家カに治チ乱ランなル乃ハ機キなるに諸シヨ侯コウ乃ハ子シ
 孫ソたる人ヒトに二ニの機キをスるに常トシに情セイを徳トクを
 考カウを孝コウをスるに終ハシは其臣シ民ミンのそ
 て今イマ名ナかぎりありあハるべし
 君子訓卷下終

右君子訓三卷。我益軒先生所
 著也。佐藤藤右衛門夜須郡曾
 根田農夫。歷任教材里正。素好讀
 書。於先生諸訓尤加崇奉。將
 指家貫刻是書。以公諸世。第其
 為書出于傳寫。重複錯免。謬誤

尤多。因屢請余校正。余不敢當。其請益堅。乃據諸家藏本。互校訂。除複刊誤。定為此本。嗟乎。余衰耄之餘。眼昏手倦。鉛槧之勞。兒輩是依。固不能保其無謬也。然學者苟能耐煩細讀。則將

有得先生之意。於言語文字之表焉。是藤右之所以有此舉也。天保十年己亥初冬

月形質撰



天保十三年己亥初冬
長尾正書

天保十三年壬寅孟秋新刻

筑前夜須郡曾根田村農夫

佐藤藤右衛門藏版



筑後久留米

彫刺 中澤嘉右衛門

